



國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

167

國家圖書館出版社

六月四日

六月三日



國家出版基金項目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

167

國家圖書館出版社

第一六七冊目錄

昭和十四年（一九三九）調查報告（第三十六期生）

廣州市に於ける人口の離散及復歸の狀態

廣州市の人口離散及回歸之狀態 鹿毛政人

廣州地方物資ノ出廻及取引狀況

廣州地區物資の流通及交易狀況 岡正住

廣東省ニ於ケル礦產資源ト鐵

廣東省的礦產資源和鐵 西村敏雄

廣東に於ける支那人の對日感情

廣東的中國人對日感情 土本邦雄

一

七三

一六九

二三九

廣東の貨幣金融

廣東的貨幣金融

高相武彦

.....

二七三

廣東地方交通狀況

廣東地區交通狀況

古市清

.....

三七五

廣東ノ生絲

廣東的生絲

田尻親種

.....

四八一

海南島金融經濟事情調查報告書

海南島金融經濟情況調查報告書

吉村英助

.....

五四一

香港華僑概說

香港華僑概說

下條義克

.....

六一三

和十四年度

大旅行報告書

鹿毛政人

昭和十四年度

上海東亞
同文書院
圖書館印

人口の離散及復歸の状況

旅行報告

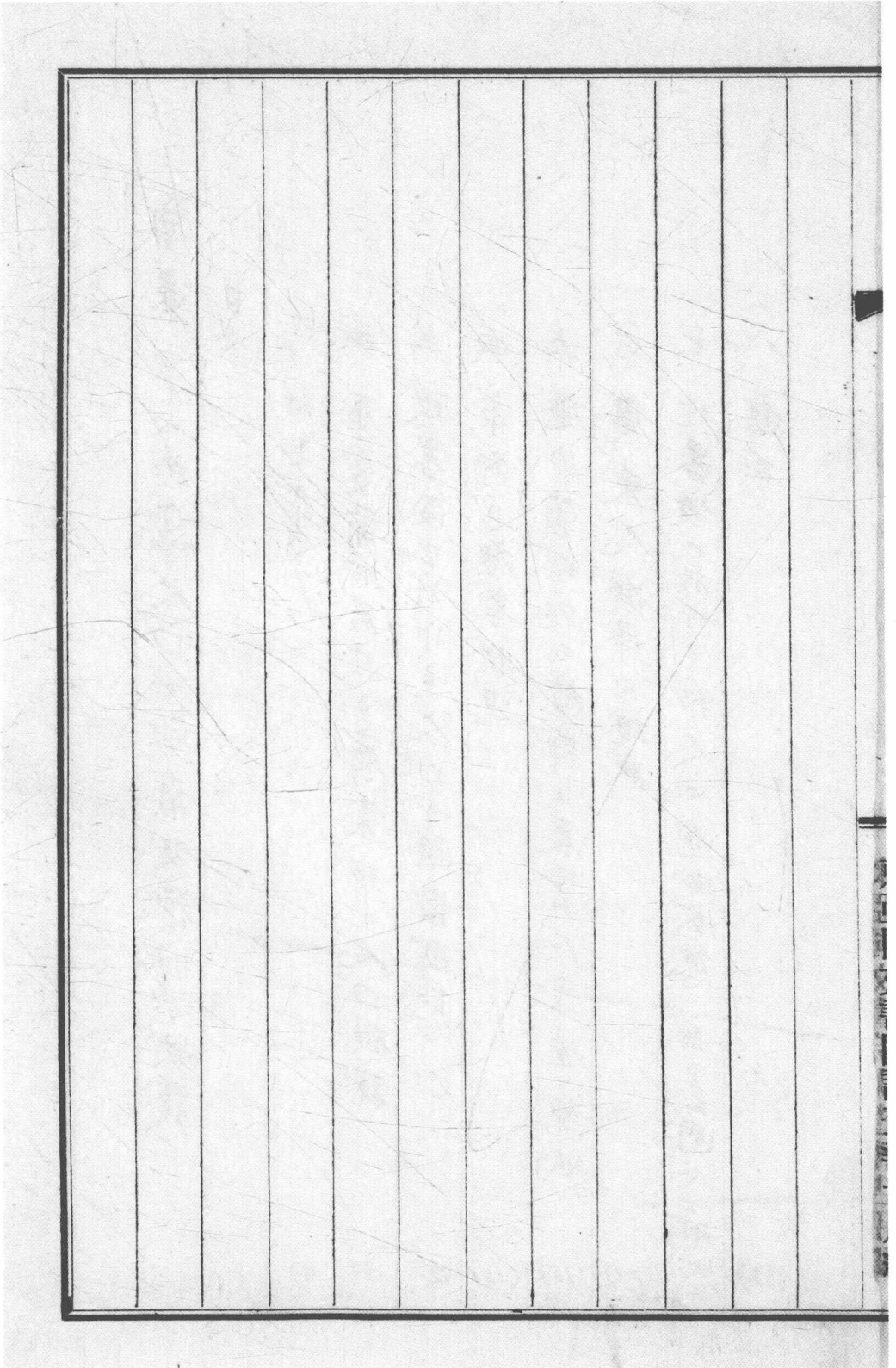
36期生

廣毛政人

廣東市に於ける人口の離散及復歸の狀態

目次

- | | |
|----------------------------|------|
| 一、はしかり | (1) |
| 二、事変前に於ける廣東市の人口概説 | (3) |
| 三、攻畧後に於ける人口の離散狀態 | (12) |
| 四、市街の被害狀況 | (16) |
| 五、電力管理處の統計に表はれた家屋の現状 | (18) |
| 六、廣東人復歸の現状 | (27) |
| 七、攻畧後に於ける邦人の進出狀態。附 第三國人の現状 | (35) |
| 八、結い | (58) |



廣州市に於ける人口の離散及復歸の狀態

一、 はしがき

昭和十三年十月二十一日、排日抗戰の一大策源地廣東は、我無敵皇軍の鎧袖一觸の下に、攻畧さるゝ所となり、ついで廣東復興を目指す廣東治安維持會は、十一月二十七日發會式を、十二月二十日もの結成式を舉行し、專ら同市の治安の回復を行ひ、更に各縣に及ぼして順次進行し、努めて人民をして復歸安居樂業せしむると言ふが、其の目的であつた。

我々が廣東に上陸したるは、昭和十四年六月十五日であつて治安維持會結成後、僅かに六ヶ月餘しか経過して居らず、爲に這般の事務も漸く手に初めたと云ふ有様で、全く白紙から辦事する事の複雑且困難である事、或は後述する所の

人口百萬の大都市が、到る處破壊されてゐる事に鑑み、其の當初全てに亘って拾收に一大困難を生じてゐる事は、容易に推察され得るところである。其の爲私の課題中、市民の復歸の狀態は、治安維持會に於いて調査されてゐるのであるが、未だ完成迄には程遠く、全この統計は八月末頃にならねば、はつきりした事は言へないとの事であつた。仕方無く歸院後改めて御送附願ふ事の約束通りに、十月初旬學校に御願ひして依頼書を発送して貰つたが、その後何らの返事にも接せず、思ふに未だ全この事務行政が、軌道に乘つてゐない事を哀書してゐる事を知り得るのである。

以上の理由の爲に、己むを得ず廣東人の復歸の狀態は、統計無きものに、見、聽、且讀んだ事を基礎として概畧

述べねばならなくなった事を残念に思ふと同時に御諒解を乞ふ次第である。

二、事変前に於ける廣東市の人口概説

民國二十四年八月版の廣東年鑑に依り、事変前の廣東市の人口を概説すれば次の如し。

本市はもと南海番禺の兩縣に分たる。従前の戸口は詳ぶらかでないが、警察寮が開かれより始めて戸籍帳簿が編纂された、即ち公安局の報告に據れば、

民國一七年四月 戸數一七六、四三六 人口八一、七五一

民國一九年一月 戸數一七八、三八〇 人口八五、二三〇

ついで、民國二十一年六月に至り、市政有人口調査委員會を組織し、十月市内を調査、十一月市郊及船戸(蛋民)を調査

した結果、

市區警界内 戸數 一八九、九七一 人口一、〇四二、六三〇人

市郊南海区 人口一四、八三九人 市郊番禺区 人口六五、一四八人

因之、本市人口總數一、一五三、五八三人となつてゐる。而して市民は昔よりの習慣により水道の加徴を避ける意味から、毎戸の平均は五人を過ぎない状態であつたが、現今では水道を取つてゐる家は戸毎に鏢を打ち、従來の事は不向に附すといふ事にして其の實をあげてゐる。しかれ市民又漸く選挙權の放棄する事の不可を知る等して、人口調査も確實となつて來た。

次に各種統計を掲げるのであるが、之の參考に供する爲に、廣東市の地区別を畧圖に依り示せばなり如し。

○市内各區に於ける職業分類。

公務員——永漢區に最も多し。(二、四四七人)

教職員——蓬原區に最も多し。(七一二人)

農業——小北區に最も多し。(一、〇七一一人)

工人——惠福區に最も多し。(二〇、六六三人)

商人——永漢區に最も多し。(四、六三四一人)

店員——太平區に最も多し。(八、一〇一人)

自由職業——陳塘區に最も多し。(一、一三四一人)

宗教家——靖海區に最も多し。(三七三人)

學生——永漢區に最も多し。(六、五七六一人)

無業——惠福區に最も多し。(一八、〇八五人)

○宗教分類。

耶教 — 東山區に最も多し。 (一、六、〇四九人)

佛教 — 大東區に最も多し。 (一、三、五〇六人)

道教 — 右同じ。 (四、六、六八人)

回教 — 永漢區に最も多し。 (二、一四五人)

公教 — 靖海區に最も多し。 (一、一、二七人)

無教 — 惠福區に最も多し。 (九、二七、〇一三人)

合計。 九五〇、三〇六人。

○ 教育程度分類。

不識字者 — 西禪區に最も多し。 (本市、三九六、九二四人)

識字者 — 望平區に最も多し。 (本市、一〇、三六〇人)

初等教育程度 — 大平區に最も多し。 (本市、八二、八三四人)

中等教育程度 — 永漢區に最も多し。 (本市、三三九、九三三人)

(本市、一三、五一八人)

(本市、八六、七〇二人)

(本市、一、三八三人)